

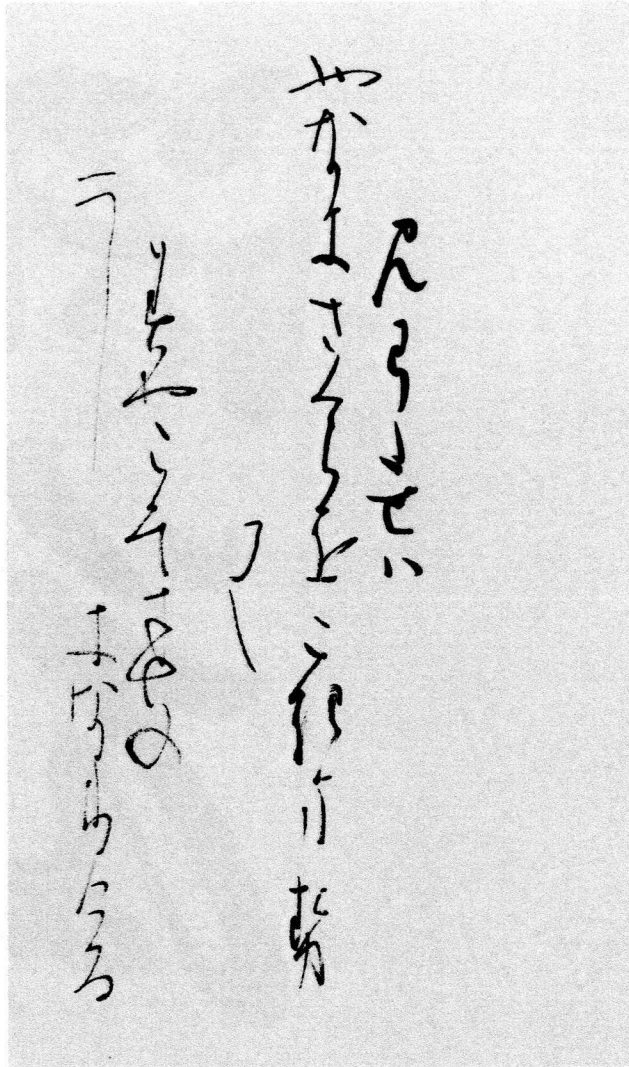
中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (五)

— 三十六歌仙 —

みわたせば 柳桜を こきまぜて 都ぞ春の 錦なりける

素姓法師 そせいほうし

(素性法師)  
生没年未詳。平安前期の歌人。僧正遍照の子で俗名は良岑玄利。



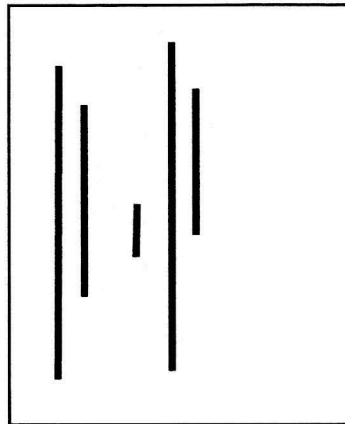
中村素堂先生の書

中谷春径先生提供

〈歌意〉

「見渡すと、柳と桜とが一緒になって入り乱れていて、京の都こそが春の錦であったのだな。」この歌は「古今和歌集・春歌上・五六番」に出ています。

〈線の構成〉



〈字母〉

見王多せハ みおたせハ  
やな支 やな ぎ さくらを さくらを こ起万 こ起 万 勢 勢

豆 て

二 に 美 み や や こ こ そ そ 春 はる の の  
支 ぎ な な 利 り 介 け 入 い る る

今回の書式は上の句三行、下の句二行に分けて、右側に大きく空間をとり、二行を一行のように見せるため、できるだけ行を詰めて書かれています。墨量は徐々に少なくなっています。

(中村青藍)